

CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニュースレター

No.15

2011年4月

Center for
International Research
on the Japanese Economy
Faculty of Economics
University of Tokyo
(CIRJE)

■コンファレンス開催報告■

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research04conf_j.html

日本経済国際共同研究センター長
東京大学大学院経済学研究科教授

福田慎一



日本経済国際共同研究センター (Center for International Research on the Japanese Economy, 通称 CIRJE) は、毎年、広く内外の研究者を集めた多数の国際会議を主催または共催し、経済・経営分野や関連する周辺の研究分野における先端的知識・情報の収集と発信に力を注いでいます。今年度も7月8-9日に APEA コンファレンス、8月20日にソウル大学および北京大学と日中韓3国コンファレンス、10月29日にソウル国立大学との交流会議、そして12月16-17日に TRIO コンファレンスをそれぞれ開催いたしました。

このうち、ソウル国立大学との交流会議は、CIRJE がソウル国立大学の経済研究所 (Institute of Economic Research) と毎年経済政策に関するコンファレンスを開催している連続コンファレンス・シリーズで、本年度で7回目となりました。この交流会議では、これまででもミクロ計量分析、経済発展、都市経済など幅広いテーマで国際会議を開催してきましたが、本年度は「経済発展と産業組織の諸問題 (Issues on Economic Development and Industrial



Organization)」をテーマに、グローバルな経済危機下において、日本、韓国、および関連諸国における適切な制度設計やポリシーのあり方を中心に議論を行いました。会議は10月29日(金)にソウル国立大学で開催され、東大からは、岡崎哲二、福田慎一、澤田康幸、松村敏弘、加納隆の5名が、報告者および討論者として参加しました。ソウル国立大学からは、Chul-In Lee, Bonggeun Kim, Byung-Yeon Kim, Sung-Jin Cho, Youngsub Chun の各氏が報告・討論を行い、世界経済が抱える経済問題を、短期的な観点ではなく、中長期的な観点から議論されるなど、活発な討論が展開され、貴重な学術交流が実現しました。今後も、CIRJE とソウル国立大学の経済研究所は、さらなる連携を深めていくことが確認されています。



また、TRIO コンファレンスは、TCER (東京経済研究センター) が、米国 NBER および欧州 CEPR との共催で毎年行っている連続コンファレンス・シリーズで、本年度は CIRJE が金融教育研究センター (CARF) のサポートを受けて2010年12月16日(木)と17日(金)の両日、東京大学大学院経済学研究科科学交流棟 (小島ホール) で開催しました。本年度のテーマは「財政政策と危機」で、財政赤字が

CIRJE Newsletter

目次

コンファレンス開催報告

■
住宅生産団体連合会
プロジェクト
住宅政策研究会

■
ワークショップ
政治経済学ワークショップ

■
客員スタッフより

■
CIRJE
ディスカッションペーパー
シリーズ

■
客員スタッフ

■
スタッフ

世界経済および日本経済にもたらす諸問題を多角的に議論しました。東大からは、伊藤隆敏、福田慎一、岩本康志らが報告者ないし討論者として参加しました。また、海外からの参加者には、Eric M. Leeper (Indiana University)、Michael Devereux (University of British Columbia)、David Cook (Hong Kong University of Science and Technology)、Bruce Preston (Columbia University)、星岳雄 (University of California, San Diego) らいずれもこの分野でのトップクラスの研究者が含まれ、大変意義深い議論が展開されました。近年、欧州ではギリシャの財政危機が発端となって財政赤字が深刻な他の欧州諸国で国債利回りのリスクプレミアムを高めただけでなく、欧州統一通貨であるユーロの信頼も揺るがす事態へと発展しています。日本でも、政府債務残高を他国と比較した場合、財政危機が顕在化した欧州諸国よりも数字上では事態は深刻となっています。このため、「財政危機」をいかに回避するかは日米欧いずれの地域でもタイムリーなトピックです。会議では、多角的な観点から活発な議論が展開され、多くの政策的提言がなされました。

最後になりますが、平穩に終わるかに思われた2010年度でしたが、最後に東日本大震災という大災害が発生いたしました。被災者の方々のことを考えると、CIRJEの被害は微々たるものといえますが、地震の影響でCIRJEも1週間閉室を余儀なくされました。また、個別の研究プロジェクトとしてご支援いただいている住宅生産団体連合会のシンポジウムが2011年3月30日に計画されておりましたが、やはり地震の影響で延期となりました。2011年度は、日本にとっても試練の年となると思われます。大変厳しい状況ではありますが、CIRJEも、これまで以上に、積極的に国際比較研究の視点を打ち出し、内外の研究者に情報の提供や共同研究の場を目指したいと思います。当センターの今後の発展に向けて、関係各位から一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年4月

■ 住宅生産団体連合会プロジェクト ■

当センターには日本経済に関する国際的な共同研究を実施するとともに、日本の経済・企業に関する情報資料を収集し、関連分野の研究者等の利用に供する」という目的に添った共同研究プロジェクトが登録されていますが、その中で、社団法人住宅生産団体連合会のご支援のもとで、現在3つの研究プロジェクトが活動しています。今回はそれらのプロジェクトの中から、「住宅政策」プロジェクト代表の井堀利宏教授に、研究活動の一環である「住宅政策研究会」についてお話を伺いました。

住宅政策研究会

大学院経済学研究科教授
井堀利宏



本研究会では、毎回、住宅政策に関する様々なテーマで講師の先生に講演をお願いし、それをふまえて、出席者との間で住宅政策に関して活発な意見交換を行ってきました。本年度は、小川一夫先生(大阪大学社会経済研究所)、鈴木亘先生(学習院大学経済学部)、

園田真理子先生(明治大学理工学部)、星貴子先生(株式会社日本総合研究所調査部)、吉野直行先生(慶應義塾大学経済学部)、小林正宏先生(住宅金融支援機構住宅総合調査室)を講師に招いて、主として、弱者対策、高齢者対策の住宅問題、住宅資産の活用方策、リバースモーゲージ、アメリカの住宅市場の動向、わが国の住宅金融のあり方などを題材に取り上げ、住宅政策の経済効果や望ましい住宅政策のあり方について、総合的に検討してきました。

なかでも、住宅資産の評価が十分になされていないため、住宅市場が機能していない点や、住宅金融における実態を考慮していない規制のためにリバースモーゲージが十分に活用されていない点など、金融、税制面での政策対応のあり方について、現状の問題点と改善すべき方向性が議論されました。マクロの住宅ストックはある程度蓄積されていますが、ミクロ的な視点で見ると、住宅の質や利用形態などで不十分な点が多くあります。

少子高齢化社会で高齢者の住宅ストックが十分に活用されない現状で、住宅の質を向上させ、住宅市場の機能を強化させるためには、官民一体の総合的な対応がますます必要となってきます。こうした問題点を様々な角度で抽出してきたことは、本研究会の成果であります。今後とも、アカデミックな研究者と現場の住宅関係者の相互理解を深めることで、こうした問題点をより解明していきたいと思っております。

■ ワークショップ ■

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research03ws_j.html

当センターは東京大学大学院経済学研究科と密接な協力関係を保持しており、経済学研究科において定期的に行われている各種のワークショップを支援しています。

政治経済学ワークショップ

大学院経済学研究科教授
柴田徳太郎



このワークショップの目的は「政治経済学」の分野に関心のある研究者間の交流を深め、様々なアイデアを交換することを通じて「政治経済学」の研究水準を全体として引き上げることにあります。その一環として大学院生の貴重な研究発表の場ともなっています。「政治経済学」とは広義に解釈し、マルクス経済学、制度派経済学、進化経済学、ポスト・ケインズ派経済学などの分野をはじめとして様々な研究分野を含んでいます。主要な参加者は東京大学の教員と大学院生ですが、外部からも報告者が招かれ、報告のテーマに関心を持つ者であれば誰でも自由に参加できます。大学院生は修士論文や博士論文の準備段階の草稿に基づいて報告を行い、コメントをもらって学位論文作成の参考にしています。

外部から招かれた報告者は以下の通りです。Klaus Nielsen (University of London)、古谷豊(東北大学)、大森拓磨(新潟大学)、石塚史樹(西南学院大学)、大黒弘慈(京都大学)、泉正樹(東北学院大学)、勝村務(北星学園大学)、Costas Lapavistas (University of London)、宮澤和敏(広島大学)、Gary Dymski (UC Center Sacramento)、鈴木和雄(弘前大学)、芳賀健一(新潟大学)。

■ 客員スタッフより ■

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/people/07people_j.html

日本経済国際共同研究センター（CIRJE）は、海外の大学、研究機関から研究者の方を客員研究者としてお迎えしております。多くの優れた研究者をお招きし、東京大学大学院経済学研究科のスタッフを中心とする日本の研究者と海外の研究者との共同研究を活性化してまいりました。今回は、客員准教授、特任教授として滞在された3名の研究者の皆様へ、当センター滞在時の感想を伺いました。



客員准教授
大阪大学経済学研究科
西村幸浩

東京大学では、2004年にワークショップにて発表をさせていただいたことがございます。このたび、CIRJEより客員准教授としてお招きをいただき、月に一度のペースで訪問をさせていただきました。滞在中には、諸先生方との学術的交流のみならず、事務スタッフの方々にも大変お世話になりました。ワークショップでは、法政大学の寺井公子教授との共著“Strategic Voting on Environmental Policy Making: The Case for “Political Race to the Top””を発表させていただきました。かねてより調査を進めていた環境問題の政治経済学のテーマで、東京大学という場で発表をさせていただけたのは、研究者として大変光栄に思っております。ワークショップにおいては、多様な研究分野の方々より有意義なコメントと活発な意見交換をさせていただき、私共の研究の進展に大いに資するのみならず、自由闊達な東京大学の研究環境の一端を楽しむことができたと思っております。このたびの客員研究員のお話をご紹介くださった岩本康志教授、またCIRJEセンター長の福田慎一教授に心より感謝を申し上げます。今後とも、研究者の研鑽と交流の場として、CIRJEおよび客員研究員の機会が有意義に用いられることを心より願います。



特任教授
School of Economics, Yonsei University,
Korea
Jinook Jeong

私は2010年1月31日から2010年4月30日にCIRJEへ滞りました。常々、おそらくアジアで最も素晴らしい大学である東京大学へ滞りたいと考えていましたが、2010年の冬にとうとう実現し、非常に充実した訪問となりました。

ところが、実際のところ今回の訪問を少々心配していました。日本にはそれまで休暇を利用してほんの数回訪れただけで、長期間滞ることが無かったためです。私は平仮名、片仮名は一切読めず、もちろん日本語を話すこともできませんでした。

しかし東京へ発つ一週間ほど前、CIRJEから空港からホテルまでの道順を説明したEメールが送られてきました。その解説には、地図やアドバイスと共に大変丁寧に道順が書かれていました。そして何より感心したことには、英語の話せないタクシー運転手の為に、日本語のホテルまでの地図まで添付されていました。このメールのお陰で私の心配は消え、そこから始まったCIRJEスタッ

フの適切で有益なサポートは、私の滞在期間を通して続けました。お陰で、私はまったく問題なく3ヶ月間を過ごすことができました。

振り返って、私はCIRJEで自分の研究生生活の20年の中でも最も有意義な時間を過ごすことができました。大学では最先端の研究者や熱心な学生達と会い、数本の論文が、同僚のフィードバックの元で大きく進展しました。CIRJEの設備は最新のもので良く整備されており、その静かで穏やかな環境が研究に集中させてくれました。実際には近隣に工事現場がありましたが、窓がしっかりしていたお陰か騒音は小さなものでしたし、その掘削機のリズミカルな音すら悪いものではありませんでした。またCIRJEを訪れるチャンスがあれば、決してためらわない事でしょう。



特任教授
Munich School of Management,
University of Munich, Germany
Tobias Kretschmer

2010年10月1日、帰りの飛行機の中で、私と家族はもう日本へ戻る計画を立て始めていました。私たちはCIRJEでの研究者達との交流、研究発表、そして共同研究に着手できたこの東京で、素晴らしい1ヶ月を過ごしたばかりでした。大都市東京の様々な特徴—素晴らしい食事や建築物、近代的でありながら伝統に根ざした文科—は魅力的ではありませんでしたが、今回の滞在を真に楽しいものにしてくれたのはCIRJEや東京大学のあの雰囲気であったのです。所属する大学の事務的な雑事から離れて研究できる静かな環境、優れた設備と、経済学部教員やセンタースタッフの素晴らしいもてなしのコンビネーションは、まさに理想的なものでした。

滞在中、受入教員の大橋弘先生が、近隣の色々なレストランへ昼食に案内して下さいました。そこでの示唆に富む会話が、「ネットワーク効果の実証分析、再生可能エネルギーの経済的な普及促進に向けての政策、そしてナショナル・イノベーション・システムの構築に関わる論点」に関する共同研究を発展するうえでの意見交換の場となりました。これらのアイデアは共同のプロジェクトへと繋がりを見せており、研究を続けて行くことを楽しみにしています。

個人的には、家族と町を散策して歩いたことも非常に面白い経験でした。1才の娘に枝豆やラーメンを食べさせたり、ジブリ美術館や渋谷のこどもの城に連れて行ったりと、滞りが一週間程度であったならば訪れることのなかったであろう場所にも行くことができました。

ところが、東京を去る段になって私たちは、1か月滞在中でもまだやりのこしたこと—研究面においてもプライベートにおいても—があると感じていました。未だ寒い冬のミュンヘンを歩きながら、近い将来、再び日本を訪れることができることを願っています。

東京大学経済学部とCIRJEの皆様、そして、特にCIRJEへ快くお招き下さった福田慎一先生、私の滞在手配して下さいました大橋弘先生、そして滞在に関する事務手続きを円滑に行ってくれた厚谷つかさ、田中公子の両氏に心から感謝申し上げます。皆さんが私を、CIRJE、東京大学、東京、そして日本に夢中にさせてくれました！

CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2010年10月から2011年3月は、Jシリーズ12件、Fシリーズ34件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは国内外の大学・研究所等に送付される他、上記のホームページからダウンロードすることも可能です。

客員スタッフ 当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を幅広い分野からお迎えして研究活動を行っております。下記のリストはその一部です。

客員教授

- Jinook Jeong : 2010年2月1日 - 4月30日
School of Economics, Yonsei University, Korea
- Julen Esteban-Pretel : 2010年4月1日 - 9月30日
政策研究大学院大学、日本
- Marcus Berliant :
2010年6月1日 - 7月9日
Department of Economics,
Washington University, USA
- Tobias Kretschmer : 2010年9月1日 - 9月30日
Munich School of Management, University of Munich, Germany
- 西村幸浩 : 2010年9月1日 - 2011年3月31日
大阪大学経済学研究科、日本
- Edward J. Vytlačil :
2011年1月11日 - 2月28日
Department of Economics,
Yale University, USA



- 北村祐一 (2010年5月17 - 25日)
Department of Economics, Yale University, USA
- 北尾早霧 (2010年6月3 - 4日)
Marshall School of Business, University of Southern California, USA
- 向山敏彦 (2010年6月10 - 25日)
Department of Economics, University of Virginia, USA
- 星岳雄 (2010年6月24 - 7月6日)
Graduate School of International Relations and Pacific Studies, University of California, San Diego, USA
- John Riew (2010年10月14 - 19日)
Department of Economics, Pennsylvania State University, USA
- Stephen Morris (2010年10月18 - 19日)
Department of Economics, Princeton University, USA
- Yi-Chun Chen (2010年12月6 - 10日)
Department of Economics, National University of Singapore, Singapore
- 松山公紀 (2010年12月8 - 2011年1月30日, 2011年3月1 - 18日)
Department of Economics, Northwestern University, USA
- 笠原博幸 (2010年12月24 - 28日)
Department of Economics, University of British Columbia, Canada

短期客員研究者

- 小原一郎 (2010年3月29 - 4月2日)
Department of Economics,
University of California, Los Angeles, USA

スタッフ

専任スタッフ

センター長

福田慎一 (東京大学大学院経済学研究科)

教授

市村英彦 (東京大学大学院経済学研究科)

国友直人 (東京大学大学院経済学研究科)

准教授

澤田康幸 (東京大学大学院経済学研究科)

顧問

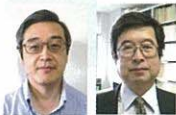
翁 邦雄 (京都大学公共政策大学院教授)

神田秀樹 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

西村和雄 (京都大学経済研究所特任教授)

濱田宏一 (Tuntex Professor of Economics,
Department of Economics, Yale University)

水口弘一 (経済同友会終身幹事、野村総合研究所顧問)



運営委員会

運営委員長

市村英彦 (東京大学大学院経済学研究科教授)

運営委員

粕谷 誠 (東京大学大学院経済学研究科教授)

谷本雅之 (東京大学大学院経済学研究科教授)

田淵隆俊 (東京大学大学院経済学研究科教授)

CIRJE Newsletter No.15

2011年4月

東京大学大学院経済学研究科附属

日本経済国際共同研究センター

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294

<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>